

日本BS放送株式会社

2022年8月期 第1四半期

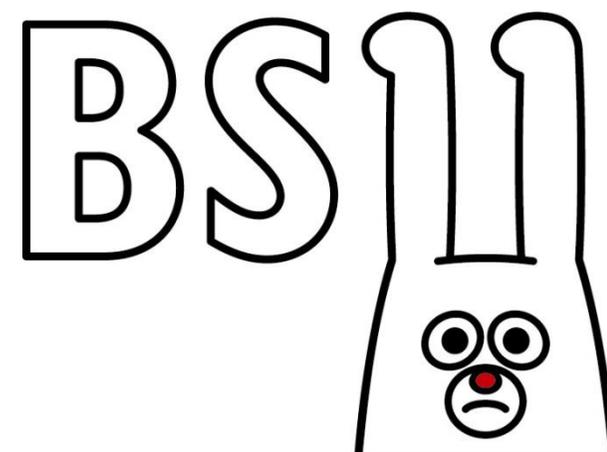
(決算補足説明資料)

2022年1月7日



東証一部 コード:9414

I 決算概況



2022年8月期 第1四半期(連結)

売上高 **3,040**百万円(前期比 9.2%増)

営業利益 **705**百万円(前期比 22.8%増)

2022年8月期 第1四半期(個別)

売上高 **2,953**百万円(前期比 10.7%増)

営業利益 **772**百万円(前期比 25.9%増)

売上高は**3,040**百万円（前期比9.2%増）、営業利益は**705**百万円（前期比22.8%増）、
親会社株主に帰属する当期純利益は**466**百万円（前期比7.9%増）

（単位：百万円、下段は売上比）

	2021年8月期 第1四半期累計	2022年8月期第1四半期累計			
		実績	前年 同期比	増減額	主な変動要因
売上高	2,785 (100.0%)	3,040 (100.0%)	9.2%	255	(売上高) ・放送事業収入・・・+186百万円 ・その他収入・・・+97百万円 ・その他収入(出版)・・・▲29百万円 (営業利益) ・放送事業・・・+159百万円 ・出版事業・・・▲29百万円
売上総利益	1,445 (51.9%)	1,609 (52.9%)	11.3%	164	
営業利益	574 (20.6%)	705 (23.2%)	22.8%	131	
経常利益	643 (23.1%)	704 (23.2%)	9.6%	61	
親会社株主に帰属 する当期純利益	432 (15.5%)	466 (15.3%)	7.9%	34	

		2021年8月期末	2022年8月期第1四半期末	
			第1四半期	前年増減額
資産	流動資産	15,520 (67.6%)	15,393 (67.6%)	▲127
	固定資産	7,452 (32.4%)	7,375 (32.4%)	▲76
資産合計		22,972 (100.0%)	22,768 (100.0%)	▲203
負債	流動負債	2,549 (11.1%)	2,232 (9.8%)	▲316
	固定負債	107 (0.5%)	109 (0.5%)	+2
負債合計		2,656 (11.6%)	2,342 (10.4%)	▲313
純資産合計		20,316 (88.4%)	20,426 (89.6%)	+109
負債・純資産合計		22,972 (100.0%)	22,768 (100.0%)	▲203

（単位：百万円、下段は売上比）

	2021年8月期 第1四半期累計	2022年8月期第1四半期累計			
		実績	前年同期比	増減額	主な増減要因
売上高	2,669 (100.0%)	2,953 (100.0%)	+10.7%	+284	<ul style="list-style-type: none"> ・タイム収入の増加・・・ +62百万円 ・スポット収入の増加・・・ +124百万円 ・その他収入の増加・・・ +98百万円
売上総利益	1,409 (52.8%)	1,591 (53.9%)	+12.8%	+181	（段階利益） 売上高が前年比より伸長、 費用の効率的使用により増加
営業利益	613 (23.0%)	772 (26.2%)	+25.9%	+159	≪利益増加の具体的要因≫ 製造原価
経常利益	683 (25.6%)	772 (26.2%)	+13.1%	+89	<ul style="list-style-type: none"> ・新規レギュラー番組の開始、 コンテンツ購入、話題作の放送 販売管理費
四半期純利益	472 (17.7%)	534 (18.1%)	+13.1%	+62	<ul style="list-style-type: none"> ・広告宣伝の効率的な実施

	2021年8月期 第1四半期累計	2022年8月期 第1四半期累計	
		実績	前年同期比
売上高	2,669 (100.0%)	2,953 (100.0%)	+10.7%
タイム収入	1,963 (73.6%)	2,026 (68.6%)	+3.2%
スポット収入	630 (23.6%)	754 (25.6%)	+19.6%
その他	74 (2.8%)	172 (5.8%)	+230.6%

主な増減要因(前年対比)

- **タイム収入**
レギュラー番組、特別番組のセールスを強化し、前期比微増で着地
- **スポット収入**
スポット市況の好調により、純広スポット、通販スポットともに需要が高まり、前期比+19.6%と伸長
- **その他**
製作委員会への出資に伴う配当金の拡大に伴い、前期比+230.6%と大幅増

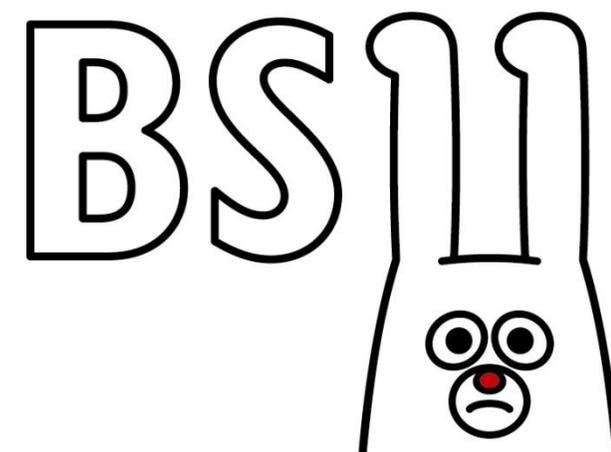
主要費用項目実績（個別）

	2021年8月期 第1四半期累計	2022年8月期 第1四半期累計		
		実績	前年同期比	主要な増減要因
番組関連費用(原価)	759 (28.4%)	863 (29.2%)	+13.6%	
番組購入費	71 (2.7%)	86 (2.9%)	+21.5%	視聴者ニーズに応えたアニメ、ドラマ作品の購入
番組制作費	688 (25.8%)	777 (26.3%)	+12.8%	新規レギュラー番組の放送開始
放送関連費用(原価)	163 (6.1%)	145 (5.0%)	▲10.7%	
放送委託費	139 (5.2%)	134 (4.6%)	▲3.2%	
技術費	24 (0.9%)	11 (0.4%)	▲53.3%	前期：送出設備更新に伴う費用増
広告関連費用(販管費)	193 (7.2%)	196 (6.6%)	+1.5%	
広告宣伝費	181 (6.8%)	183 (6.2%)	+1.3%	
販売促進費	12 (0.4%)	12 (0.4%)	+5.0%	

貸借対照表の概要（個別）

		2021年8月期末	2022年8月期第1四半期末		
			第1四半期	前年増減額	主な増減要因
流動資産	流動資産	14,674 (66.3%)	14,566 (66.3%)	▲107	・現金及び預金の減少 ▲184百万円
	固定資産	7,462 (33.7%)	7,386 (33.7%)	▲76	
資産合計		22,136 (100.0%)	21,952 (100.0%)	▲183	
流動負債	流動負債	1,824 (8.2%)	1,459 (6.6%)	▲364	・買掛金の増加 +43百万円 ・未払金の減少 ▲93百万円 ・未払法人税等の減少 ▲365百万円
	固定負債	107 (0.5%)	109 (0.5%)	+2	
負債合計		1,931 (8.7%)	1,569 (7.1%)	▲361	
純資産合計		20,205 (91.3%)	20,383 (92.9%)	+178	・利益剰余金の増加 +178百万円
負債・純資産合計		22,136 (100.0%)	21,952 (100.0%)	▲183	

Ⅱ 重点実施事項トピックス



知恵と知識を結集して戦略を強力に実行、これら6つの「力」を強化・実践

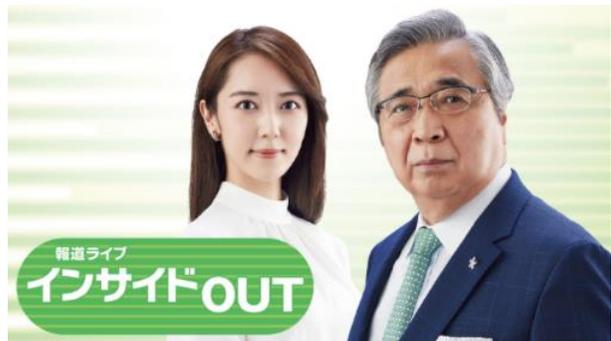


「6つの力」を具現化する重点施策を「Value5」と位置づけ推進

-
- VALUE I. コンテンツ強化**
マルチユースを前提としたコンテンツの企画制作
 - VALUE II. 配信ビジネス、新規事業開発と収益化**
アーカイブを含む自社コンテンツの活用
 - VALUE III. アニメ事業の強化と発展**
アニメ番組の強化、周辺事業への発展
 - VALUE IV. コラボレーション施策の推進**
番組共同制作をはじめとした協力関係の強化
 - VALUE V. 情報番組の新規、深耕開拓**
戦略に基づく新規開拓、新規企画の共同開発

10月番組改編

◆報道番組の強化



新サブキャスターとして『速報ニュース インサイドOUT』のキャスター上野愛奈さんを迎え、報道番組の統一感と連動性を強化

◆新レギュラー番組スタート

前期に特別番組として好評を得た2つの番組がレギュラー番組として放送開始



英雄たちの偉大な功績と意外な素顔を歴史専門家・加来耕三先生と共に履歴書にまとめあげていく歴史教養番組



ローカル鉄道の沿線地域の振興を目的として始まった「鉄印」を集める旅を美しい映像とこだわりの音楽でお届けする紀行番組

◆ローカル局コラボレーション施策



東京メトロポリタンテレビジョン(株)、(株)京都放送と3社共同制作にて、10月より月1回のレギュラー放送開始



今年で放送6年目となり、ゲストに俳優の高島礼子さん、ギタリストの押尾コータローさんを迎え、曼殊院門跡からお届け

「おいでよ和歌山 絶景！爽快！海沿いサイクリング旅」



紀南エリアのサイクリングコースを走りながら、観光、グルメなどをご紹介します

◆スポーツ番組の充実



新MCにココリコの田中直樹さんと川口満里奈さんを迎え、放送開始6年目となる新シーズンがスタート。



初の試みとして、女子プロゴルフトーナメント『スタンレーレディスゴルフトーナメント』を放送。



4つのダートグレード競走が同日実施される『ダート競馬の祭典「JBC2021」生中継』を放送。事前番組として『絶対、JBCホースマンたちの物語』も制作、放送。

「2021年度 全日本学生柔道優勝大会」



新型コロナウイルス感染症拡大の影響で2年ぶりの開催

◆ドラマジャンルの拡充



©ITV Studios. All rights reserved. Mopar Media for Viaplay
スウェーデン発 北欧サスペンス



©Shenzhen Tencent Computer Systems Company Limited
中国時代劇



©GMMTV COMPANY LIMITED. All rights reserved
タイ BLドラマ

レギュラー番組



アニメ番組の強化

◆放送タイトル(2021年10月～2021年12月)

2021年10月クールはアニメ関連番組全**46**タイトル放送



©桐丘さな/集英社・大正オトメ御伽話製作委員会

©西田征史・久保忠佳・三宮宏太・講談社/ミッション

©プラネット・日本アニメーション/やくなまぐカップも製作委員会

©盆ノ木至(秋田書店)/製作委員会すぐ死ぬ

©伽藍堂/「逆転世界/電池少女」製作委員会

©理不尽な孫の手/MFブックス/「無職転生」製作委員会

©大場つぐみ・小畑健/集英社・プラチナエンド製作委員会

©2021.SUNRISE BEYOND INC.

©吾峠呼世晴/集英社・アニプレックス・ufotable

©吾峠呼世晴/集英社・アニプレックス・ufotable

◆アニメ関連番組の強化



「アニゲー☆イレブン！」

2021年10月で7年目に突入。番組MCは声優の和氣あず未さんが務め、毎回ゲストを招くトークバラエティ。



アニソン番組「Anison Days」

番組オリジナルアレンジによるスタジオ生演奏でMCの森口博子さん、酒井ミキオさん、そしてゲストが、それぞれがセレクトするアニソンをお届け。

グループ企業との取組み



グループ会社である(株)理論社、(株)国土社の児童書を映像化し、読み聞かせ番組として放送

配信コンテンツの充実

重点施策である「配信ビジネス、新規事業開発と収益化」を目的とし、**自社制作番組のネット配信を強化**
各種プラットフォームでの見逃し配信を開始



Youtube、Paravi
GYAO!にて配信中



当社独自の配信サイト「BS11オンデマンド」においても、
レギュラー番組、特別番組の放送後、無料配信中！

2022年12月1日の15周年に向けた取組み



Ⅲ. アニメ事業の強化と発展



©2019 丸戸史明・深崎暮人・KADOKAWA ファンタジア文庫刊/映画も冴えない製作委員会 ©2019 佐島 勲 KADOKAWA 魔法科高校2製作委員会

© AAS/新海上安全整備局 © 横客社・株式会社KADOKAWA刊/ノーゲーム・ノーライフ ゼロ製作委員会

2022年1月1日(祝・土)正午より、「アニメロサマーライブ2021 powered by Anison Days」を、テレビ独占元日一挙7時間放送
毎年恒例の「Fate Project 大晦日TVスペシャル2021」など、年末年始は各アニメ特番を放送



I. コンテンツ強化



(株)世界文化社より刊行されている『東京藝大で教わる西洋美術の見かた』(著者:佐藤直樹)をテレビ番組化

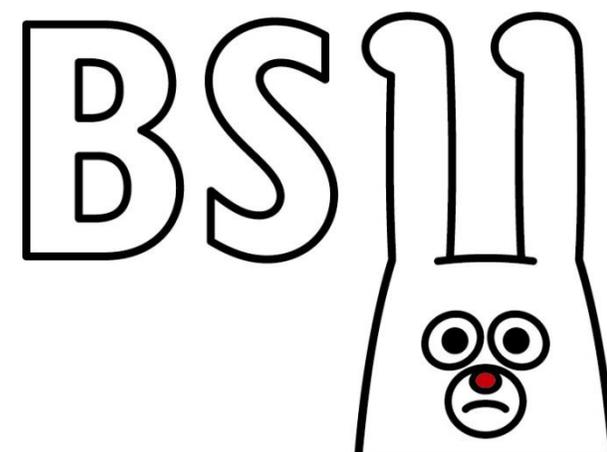


Ⅱ. 配信ビジネス、新規事業開発と収益化



Youtube限定動画・番組収録後の「偉人・素顔の履歴書 加来先生のアフタートーク『偉人・こぼれ噺』」を配信開始

Ⅲ 通期計画



売上高は12,200百万円（前期比1.6%増）、営業利益は1,810百万円（前期比32.2%減）、

親会社株主に帰属する当期純利益は1,250百万円を計画（前期比33.0%減）

コンテンツ強化等によるコスト増を見込むため前期比減益

（単位：百万円、下段は売上比）

	2021年8月期		2022年8月期				
	第2四半期 累計	通期	第2四半期累計		通期計画		
			計画	前期比	計画	前期比	増減額
売上高	5,747 (100.0%)	12,004 (100.0%)	5,950 (100.0%)	3.5%	12,200 (100.0%)	+1.6%	+196
営業利益	1,264 (22.0%)	2,669 (22.2%)	1,060 (17.8%)	▲16.2%	1,810 (14.8%)	▲32.2%	▲859
経常利益	1,334 (23.2%)	2,741 (22.8%)	1,060 (17.8%)	▲20.6%	1,810 (14.8%)	▲34.0%	▲931
親会社株主に帰属 する当期純利益	911 (15.9%)	1,866 (15.6%)	735 (12.4%)	▲19.3%	1,250 (10.2%)	▲33.0%	▲616

売上高は11,500百万円（前期比2.0%増）、営業利益は1,800百万円（前期比31.6%減）、

当期純利益は1,243百万円を計画（前期比32.4%減）

コンテンツ強化等によるコスト増を見込むため前期比減益
（単位：百万円、下段は売上比）

	2021年8月期		2022年8月期				
	第2四半期 累計	通期	第2四半期累計		通期計画		
			計画	前期比	計画	前期比	増減額
売上高	5,459 (100.0%)	11,269 (100.0%)	5,672 (100.0%)	+3.9%	11,500 (100.0%)	+2.0%	+231
タイム収入	3,943 (72.2%)	8,008 (71.1%)	4,012 (70.7%)	+1.7%	8,161 (71.0%)	+1.9%	+153
スポット収入	1,344 (24.6%)	2,759 (24.5%)	1,405 (24.8%)	+4.5%	2,825 (24.5%)	+2.3%	+66
その他	171 (3.1%)	500 (4.4%)	254 (4.5%)	+48.5%	512 (4.5%)	+2.4%	+12
営業利益	1,250 (22.9%)	2,632 (23.4%)	1,069 (18.8%)	▲14.4%	1,800 (15.7%)	▲31.6%	▲832
経常利益	1,320 (24.2%)	2,704 (24.0%)	1,069 (18.8%)	▲19.0%	1,802 (15.7%)	▲33.4%	▲902
当期純利益	902 (16.5%)	1,840 (16.3%)	741 (13.1%)	▲17.8%	1,243 (10.8%)	▲32.4%	▲597

2022年8月期は、期末配当金 20.0円を計画

配当政策の基本方針

- ・ 当社は、BSデジタル放送事業者という高い公共性に鑑み 永続的且つ健全な経営の維持に努めるとともに、財務体質の強化と内部留保の充実を考慮しつつ、将来の事業展開等を総合的に勘案した上で、長期にわたり**安定した**利益配当を**継続的に**実施する方針です。
- ・ **年1回**の期末配当を行うことを基本とします。

年間配当金

	2016年 8月期	2017年 8月期	2018年 8月期	2019年 8月期	2020年 8月期	2021年 8月期	2022年 8月期 (予想)
年間配当	17.0 円	18.0 円	19.0 円	20.0円	20.0円	20.0円	20.0円
1株当たり当期純利益	82.04 円	85.27 円	93.19 円	65.08円	83.72円	104.83円	70.21円

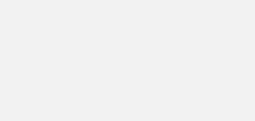
※1株当たり当期純利益の数値は、2017年8月期以前は個別、2018年8月期以降は連結で表示しております。

株主優待制度の概要

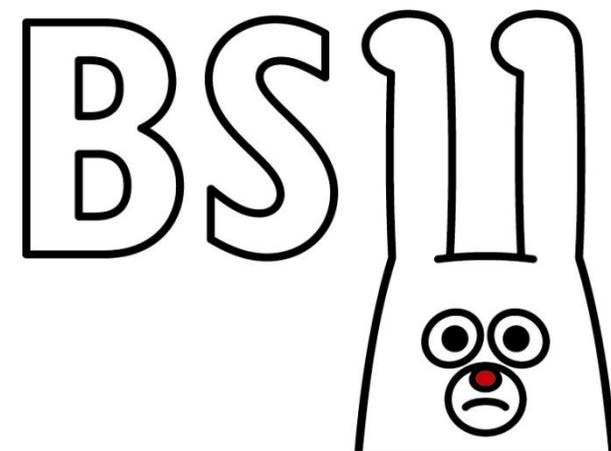
- ・ 8月末日、2月末日を基準日として、年2回の株主優待を実施
- ・ ビックカメラグループ全店で利用可能な「ビックカメラ商品券」1,000円券1枚を贈呈
- ・ 各基準日現在の当社株主名簿に記載または記録された当社株式1単位(100株)以上保有されている株主様が対象

長期保有株主優待制度の概要

- ・ 以下の2要件の両方に該当する株主様に対し、「ビックカメラ商品券」(1,000円券)を追加贈呈。
 - ①基準日(毎年8月末日、2月末日)の当社株主名簿に連続3回以上同一株主番号で記載または記録されたこと
 - ②当社株式1単位(100株)以上を継続して保有されていること

基準日		2月末日	8月末日
贈呈時期		5月	11月
贈呈内容	株主優待制度	 ビックカメラ商品券1,000円券1枚	 ビックカメラ商品券1,000円券1枚
	長期保有株主優待制度	 ビックカメラ商品券1,000円券1枚	 ビックカメラ商品券1,000円券1枚

IV (ご参考)会社概要



会社概要

本社	東京都千代田区神田駿河台二丁目5番地
事業内容	全国無料のBSハイビジョン放送“BS11”チャンネルの運営
代表者	代表取締役会長 兼 CEO 齋藤 知久 代表取締役社長 兼 COO 近藤 和行
設立	1999年8月
資本金	41億8393万円（2021年8月31日現在）
従業員数	121名（連結）（2021年8月31日現在）

沿革

1999年8月	株式会社ビックカメラにより、衛星放送の番組及び普及に関する調査研究を目的として設立
2000年12月	BSデジタルデータ放送開始
2004年9月	東経110度CSデジタル放送開始
2007年12月	BSデジタルハイビジョン放送（BS11）開始
2010年 4月	一般社団法人日本民間放送連盟に入会
2010年11月	株式会社ジュピターテレコム（J:COM）において再送信開始
2011年10月	接触率調査（BSパワー調査）に参加
2014年3月	東京証券取引所市場第2部へ上場
2015年3月	東京証券取引所市場第1部へ上場
2018年1月	理論社・国土社の株式を100%取得し完全子会社化

コーポレートガバナンスの基本的な考え方

当社は、国民共有の希少資源である電波を預かる放送事業者として公共的使命と社会的責任の重要性を深く認識しています。「質の高い情報を提供することで人々に感動を与え幸せな社会づくりに貢献します」という経営理念のもと、企業の持続的な成長と中長期的な企業価値向上を図るため、実効性のあるコーポレートガバナンスを実現してまいります。

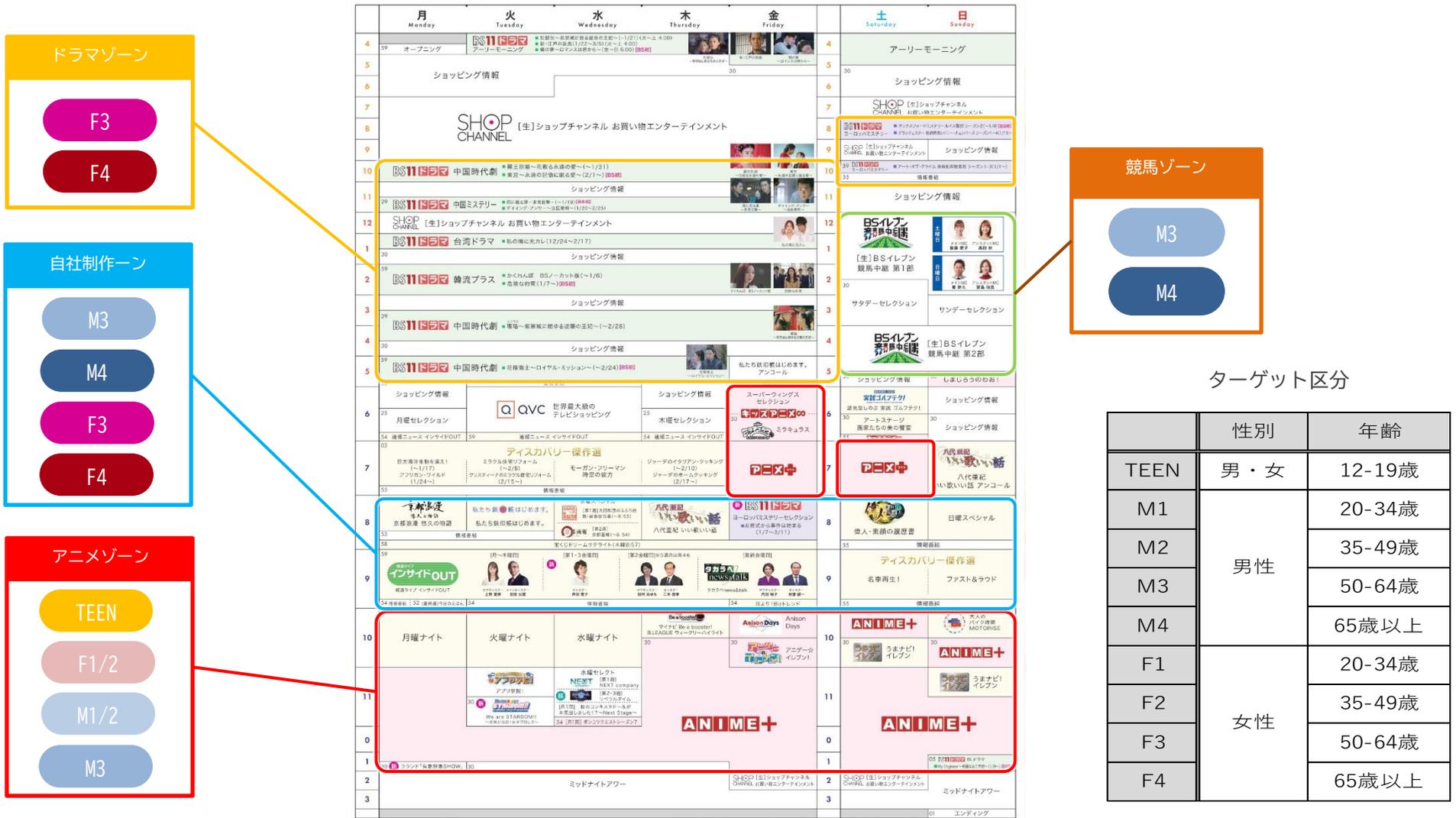
全国無料BS放送局

グループ会社	日本テレビ	テレビ朝日	TBS	テレビ東京	フジテレビ	ビックカメラ	三井物産	放送大学
放送局	BS日テレ	BS朝日	BS-TBS	BSテレ東	BSフジ	BS11	BS12	BSキャンパスex BSキャンパスon
系列	地上波系列					独立系	公共	
開局年月	2000年12月開局					2007年12月	2011年11月開局	
グループ	“無料BS放送6局”として視聴状況調査を実施（～2020年3月）、 共同で『メディアガイド』を作成するなどBS放送の価値向上に向けた取り組みを実施。							

BS11の特徴

- ①独立系だからこそ**自由な編成**が可能！
- ②『**ドラマ**』・『**アニメ**』・『**競馬**』など多岐にわたるラインナップ編成により、**幅広い年齢層の視聴者層**が存在！
- ③家電量販店**ビックカメラ**を親会社に持つため、番組・CMの放送に加えて、**消費者へのダイレクトなコンタクトポイント**が**持てる企画**が可能！

BS11では曜日・時間帯ごとに視聴者ニーズに応える編成を実施
そのため、他民放BS局と比較しても**幅広い年齢層の視聴**が見られる



(2022年1月クール編成表)

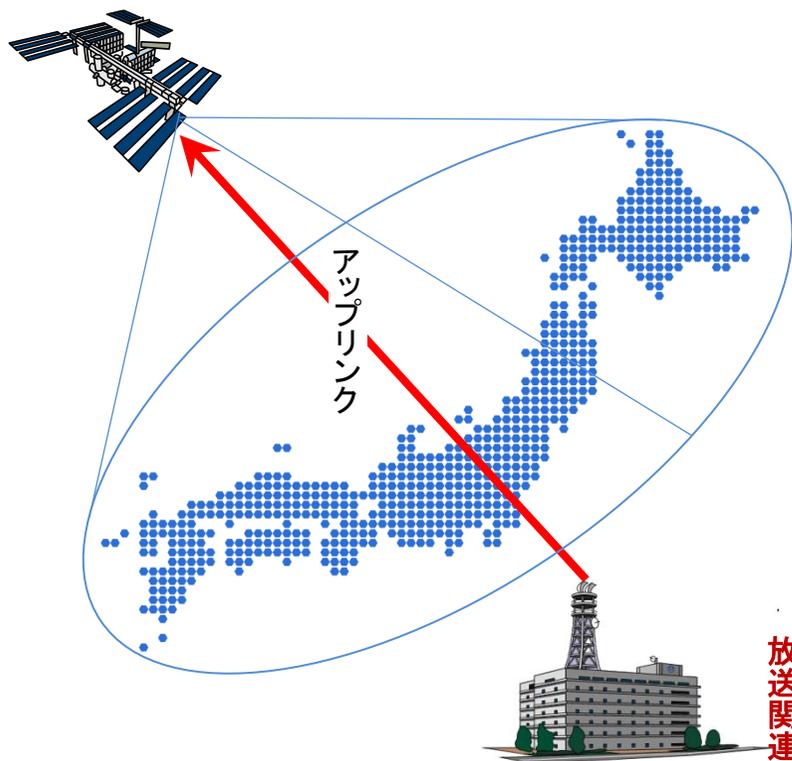
【地上波とは全く異なるコスト構造により高効率の広告ビジネスを実現】

◆地上波に比べ低コストでの放送 ⇒ 効率的な広告費で日本全国に放送可能

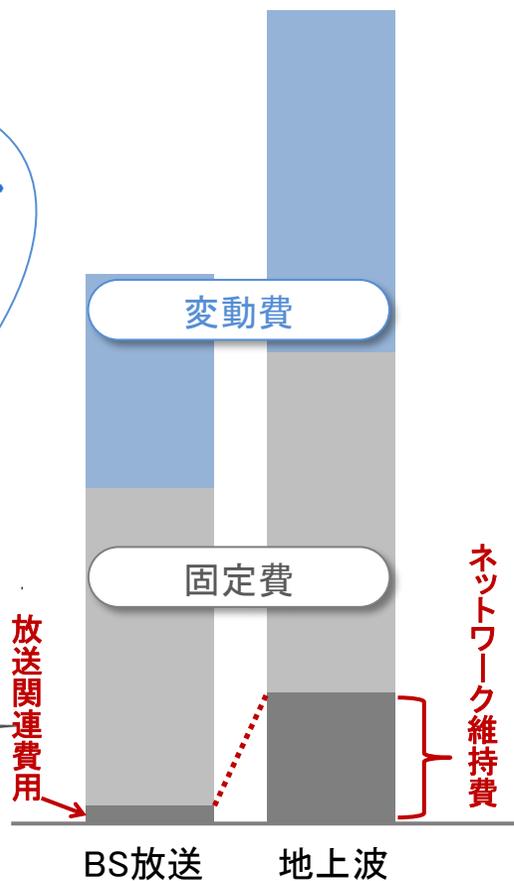
無料BS放送

コスト構造の比較

キー局系列の地上波放送



- ・日本全国に電波の送信が可能
- ・ネットワークの構築が不要



- ・少数チャンネル地域の存在
- ・嵩むネットワーク維持費

- ❑ 本資料は日本BS放送株式会社(以下、当社)の業績に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的としたものではありません。
- ❑ 本資料には当社の業績、戦略、事業計画などに関する将来的予測を示す記述および資料が記載されております。これらの将来的予測に関する記述および資料は過去の事実ではなく、発表時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予測です。
- ❑ また経済動向、他社との競合状況などの潜在的リスクや不確実な要因も含まれています。その為、実際の業績、事業展開または財務状況は今後の経済動向、業界における競争、市場の需要、その他の経済・社会・政治情勢などの様々な要因により、記述されている将来予測とは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おき下さい。

【本資料及び当社IRに関するお問い合わせ先】

日本BS放送株式会社

経営戦略局 経営戦略部

TEL 03-3518-1900

URL <https://www.bs11.jp/>

